

喘息（ぜんそく）発作のない生活を目指して

～新しい薬の紹介～

1. 喘息とは

慢性的な気道の炎症によって気道が狭くなる病気です。気道が狭くなることで発作性の呼吸困難や咳が繰り返す起こります。喘息患者さんは慢性的な気道の炎症により、様々な刺激（タバコやホコリなど）に非常に敏感になっています。そのため、ちょっとした刺激により症状が現れます。



2. 喘息発作を避ける生活のポイント

喘息患者さんの気道の炎症と狭窄は、症状がない時でも慢性的に続いています。そのため以下の点に気を付けて日常生活を送りましょう。

- 生活環境を整え、ダニ、ホコリ、カビなど発作の原因を減らしましょう。
- 風邪の原因となる冷えや過労を避け、うがいや手洗いをこまめにしましょう。
- 喫煙者の方はタバコはやめましょう。

3. 治療薬について

喘息治療には以下のような治療薬が用いられます。

☆吸入ステロイド薬	フルタイド、アニュイティ等
☆長時間作用性 β_2 刺激薬 +吸入ステロイド薬	アドエア、シムビコート®、レルベア等
☆長時間作用性抗コリン薬	スピリーバ®等
☆短時間作用性 β_2 刺激薬	メプチンエアー®等
ロイコトリエン受容体拮抗薬	オノン®、キプレス®、シングレア®
テオフィリン徐放製剤	テオドール®、ユニフィル®等
経口ステロイド	プレドニン®等

上記の内☆が記載された4種類は吸入して使用する薬です。正しく使用するには吸入方法をしっかり理解する必要があります。間違った使用方法では、薬の効果が得られなかったり、副作用が現れることがあります。吸入方法は各薬剤で異なる場合があるため、分からない場合は薬剤師にご相談ください。



4. 既存治療で発作をコントロールできない場合に使用される注射薬

～生物学的製剤の紹介～

喘息では発作の原因物質により気道が刺激され、インターロイキン（IL）-4、IL-5、IL-13 といった炎症物質が放出されることが知られています。注射薬ではこれらの炎症物質の働きを妨げることで発作を起きにくくさせます。

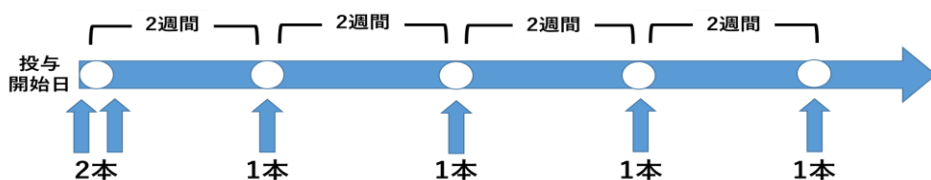
※ただし、以下の注射薬を使用できる方は既存治療によっても喘息症状をコントロールできない重症又は難治の喘息の方に限ります。

デュピクセント®皮下注 300mg シリンジ、ペン

薬価： 66,356 円（シリンジ） 66,562 円（ペン型）（2021年11月時点）

喘息発作の原因となる IL-4 や IL-13 の働きを妨げることで気道の炎症反応を抑えます。お腹や太もも、二の腕に注射して使用する薬です。病院で注射してもらうシリンジ型と自己注射できるペン型があります。

注射は毎日行うのではなく、以下のように使用します。

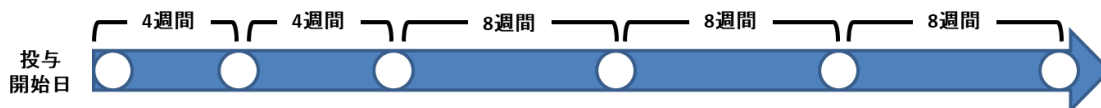


ヌーカラ皮下注 100 mgシリンジ、ペン

薬価： 179,269 円（シリンジ、ペン）（2021年11月時点）

喘息発作の原因となる IL-5 に対して特異的に結合し、IL-5 の好酸球増殖作用を抑制します。デュピクセント®と同様にペン型とシリンジ型があります。

投与スケジュールは以下のようになります。



ファセンラ®皮下注 30 mgシリンジ

薬価： 358,045 円（2021年11月時点）

喘息発作の原因となる IL-5 の受容体に結合し、IL-5 の働きを抑制します。また、ナチュラルキラー細胞に働きかけることで好酸球を減少させます。

投与スケジュールはヌーカラと同様となりますが、ファセンラ®は自己注射できないため、病院で注射する必要があります。

5. まとめ

- 治療薬は正しく使用してください。薬の使用方法が分からなかったり、少しでも不安がある方は説明書の再確認やお近くの薬剤師にご相談ください。
- 喘息はここ数年で新しい薬が増え、治療の選択肢が増えていています。喘息でお困りの方は医師にご相談ください。

参考資料：正しく知ろうあなたの喘息（キョーリン製薬）、デュピクセント®適正使用ガイド、<https://gskpro.com/ja-jp/products-info/nucala/clinical-studies/>、ファセンラ®医薬品リスク管理計画

文責：近藤倫成、本田悠喜（薬学実習生）